

就職活動体験記～国家公務員 種・地方上級試験～

ヨーロッパ文化論 西本憲司 （神戸税関）

近年、公務員を志望する人が増えているという話はよく耳にするところだと思います。志望者が増える理由としては、従来の公務員人気に加え、既卒の受験者が増加していることに拠ります。国家公務員の場合、1次試験の合格者の7割が既卒者だそうです。既卒者が受験に関して必死なのに対して現役生は危機感が足りない、と某予備校の先生は言っていました。つまり、現役生にとって最大のライバルは既卒者なのです。とはいえ、慣れた大学生活から急に受験モードに切り替えるというのは並大抵のことではありません。実際僕はそうでした。でも、きちんと対策をとれば十分合格できるはずです。ということで、ほんの少しアドバイスなどをしてみたいと思います。

1. 試験勉強を始める時期はいつからなのか？

公務員の就活が民間企業のそれと大きく違うのは、選抜試験があるということです。だから当然、試験勉強をしないではいけません。先に志望者が増加していると書きましたが、それに伴って試験内容も難化傾向にあります。ですから、「民間だめだったんで、公務員でも受けよう～」とか思って急に受験してもまず受からないと思います。そこで、どれくらいの期間勉強が必要なのか？国 地上レベルに限れば、最低5ヶ月は必要でしょう。これは長い期間のように思われますが、逆算すれば3回生の年を明けてからでもまだ間に合うということです。もし、公務員になりたいけど準備に時間がかかるから・・・とっている人がいたらどうか諦めずに受験してみてください。

2. 国際文化学部というのは不利なのか？

そんなことはありません。たしかに試験科目には法律や経済など国文生に馴染みの無い科目があります。その分野でいえば、法学部や経済学部が有利かもしれませんが、試験内容は広く浅いので、一から勉強しても十分取り戻せます。だから理系の人も不利にはなりません。つまり、スタートラインは皆同じと考えてよいでしょう。

3. 予備校に通うべきなのか？

公務員試験には合格できるための学力が必要ですが、それと並んで情報力も必要になってきます。効率のいい勉強をするためにも情報は必要ですし、1次試験を突破したあとの面接試験や官庁訪問（国 のみ）ではある程度の情報が必須です。たとえば、官庁訪問においては、予約の受付開始日時が官庁によって異なるので、もしその日時を知らなかったら、説明会にすら参加できずに終わってしまう、ということにもなりかねません。そこで、情報を得るという意味で、予備校の存在は大きいと思います。また、同じ公務員を目指す

仲間（ライバル？）が近くにいるということは非常にやる気を起こさせてくれるでしょう。と、こういうふうには書くと、どっかの予備校のまわし者みたいですが、まあ予備校に通うには、かなりのお金がかかるのも事実。独学で受けるというのも全然かまいません。ただし、その場合それなりの根気は必要でしょう。僕は過去の経験上、それはムリと分かっていたので、しませんでした。まあ、お金とやる気と相談して決めてほしいと思います。

4．民間との併願はすべきなのか？

余裕があるかぎりしたほうが良いと思います。公務員にも面接試験がありますから、本番で緊張しないためにも何回か経験しておくといいでしょう。ただし民間企業の面接で「公務員も志望しています」と言うと嫌がられるらしいですが…。

5．面接対策について

公務員の面接試験というのは「落とすための試験」ではありません。1次試験に合格しただけで十分公務員になる資格はあるのです。でも、定員があるから何人かは落とさなくてははいけません。そこで、どういう視点で不合格者を決めるのか、というのがポイントになります。そこで重要なのは二つのポイント。つまり、コミュニケーション能力があるかどうかということと、合格したら本当に内定を受諾するかということです。

前者については言うまでもなく、付き合いづらような人を採用したいとは思わないでしょう。後者についてですが、国も地上も併願者がかなり多いのが実情です。面接官もそこが気になるらしく、「もし合格したら本当にうちに来てくれるの？」とよく聞いてきますが、受験生はたとえそう思ってなくても「はい、必ず入ります」と答えます。だから、自分が本当に入りたいんだということをうまくアピールすると評価はいいでしょう。具体的にどうするかは自分自身で考えてください。時にはウソもネコかぶりも必要です。

6．論文対策について

論文対策としては、まず情報収集、そして文章作成という二つの要素が重要です。本屋さんとかに並んでいる就職用の時事関係の本を買ってよく読むのが効果的です。毎日、新聞を読む習慣もつけておくとよいでしょう。さらに、地方自治体を受験する人は、その自治体のHPなどで、その自治体でどのようなプロジェクトが進められているかなどをチェックしておきましょう。これらは論文のみならず面接対策としても重要です。

7．官庁訪問対策について

国・を受験する人には官庁訪問があります。具体的に何をやるのかといいますと、大概は業務説明を聞いて質疑応答をするというのがお決まりのパターンです。ただ、注意しなければならないのは、この説明会への参加が事実上、採用面接の受験資格になっている

る場合が多いということです。国家公務員の場合、人事院の主催する二次試験（面接）とは別に、各官庁が独自に行う採用面接というのがあります。内々定という例外はありますが、この採用面接に受からないと採用してもらえないのです。ですから、国家公務員試験には合格しても、採用されないのでは働けないということもありうるので注意してください。受験生は平均して7～8官庁を訪問しているようですが、体力気力の続くかぎりできるだけ多く訪問したほうが良いと思います。最初は緊張しても、回を重ねるごとに慣れていくでしょう。これは実は面接対策としても有効だと思います。それに何より、実際に職場を訪問して職員の方々と接するというのは、自分のやりたい仕事を見つける上でも重要です。この官庁訪問で志望官庁が変わったという人もかなり多いと思います。対策としては、各予備校が主催する無料の官庁訪問ガイダンスに参加するのが良いでしょう。（これは入会してなくても受講できたと思います）。あとは、真夏の炎天下をスーツ着て動き回るわけですから、健康の管理にはくれぐれも気をつけてください。（2002年2月）